

## 「空知の炭鉱関連施設と生活文化」 (空知地域)



空知は国内最大の産炭地として最盛期に100炭鉱、83万人の人口を擁し、日本の近代化を支えたが、エネルギー政策の転換による合理化、閉山が相次ぎ、空知の炭鉱は姿を消した。地域に残る炭鉱関連施設は生産から生活まで多岐にわたり、まさに屋根のない博物館。また、三笠市を発祥とする北海道踊りなど、ヤマは今に続く多くの生活文化を残している。



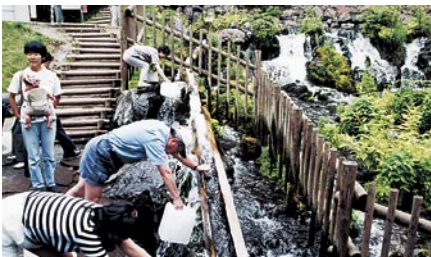
第2農場に残る模範家畜房および穀物庫は1877（明治10）年に建設された北海道大学でも最古の施設群で、1戸の酪農家をイメージした日本農業近代化のモデルとしてクラーク博士により構想された。内部に展示されている農業機械群は、明治初期の農場開設時の輸入機械をはじめ、近代農業史を語る貴重な資料である。春から秋には一般公開も実施されている。

## 「北海道大学 札幌農学校第2農場」 (札幌市)

## 「小樽みなとと防波堤」(小樽市)



「港湾工学の父」広井勇により建設された北防波堤は、セイロン（現スリランカ）のコロンボ港防波堤を参考にし、独特の傾斜ブロック工法を採用した日本初の長大堤防。ケーソン法を取り入れた南防波堤とともに、今も現役で機能する。防波堤に守られた小樽みなどは北海道移住の玄関口となり、また物流拠点、貿易港として、商都・小樽の繁栄を支えた。



蝦夷富士「羊蹄山」に降った雨や雪解け水が濾過され、地中のミネラルを加えながら50～70年という長い時間を経て流れ出る恵みの湧水。「京極のふきだし湧水」は国内最大級のもので、1日の湧水量は8万トン、30万人の生活水に匹敵する。1985年、環境庁の「名水百選」にも選ばれ、この自然が与えてくれた、おいしい水を求めて訪れる人が絶えない。

## 「京極のふきだし湧水」(京極町)

## 「昭和新山国際雪合戦大会」 (壮瞥町)



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989（平成元）年に始まった大会の歴史の中で、まれの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市（旧南茅部町）には集落規模としては国内最大級の大船遺跡など89か所の遺跡、精巧な漆塗り製品など400万点を超える出土品がある。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

## 「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」 (函館市、伊達市など)

## 「姥神大神宮渡御祭と江差追分」 (江差町)



姥神大神宮渡御祭の起源は300年前にさかのぼる。その年のニシンの豊漁に感謝を込めて行われたお祭りで、現在も毎年8月9日～11日にまちは祭り一色となる。13台の山車（やま）が祇園囃子の調べによって町内を練り歩きさまは圧巻。江差追分は中山道の馬子唄をルーツに、北国の厳しい風土にもまれながら多くの先達に唄い継がれてきた。日本国内だけでなく、海外にも多くの愛好者を持つ。はるか遠い江差のニシン景気を現代に伝える。